

群 教 七	G01 - 02
	平26.254集
	国語 - 小

# 論理的な文章を 正しく読み取ることができる指導の工夫

— 叙述と図表の関連付けを通して —

特別研修員 園部 英子

## I 研究テーマ設定の理由

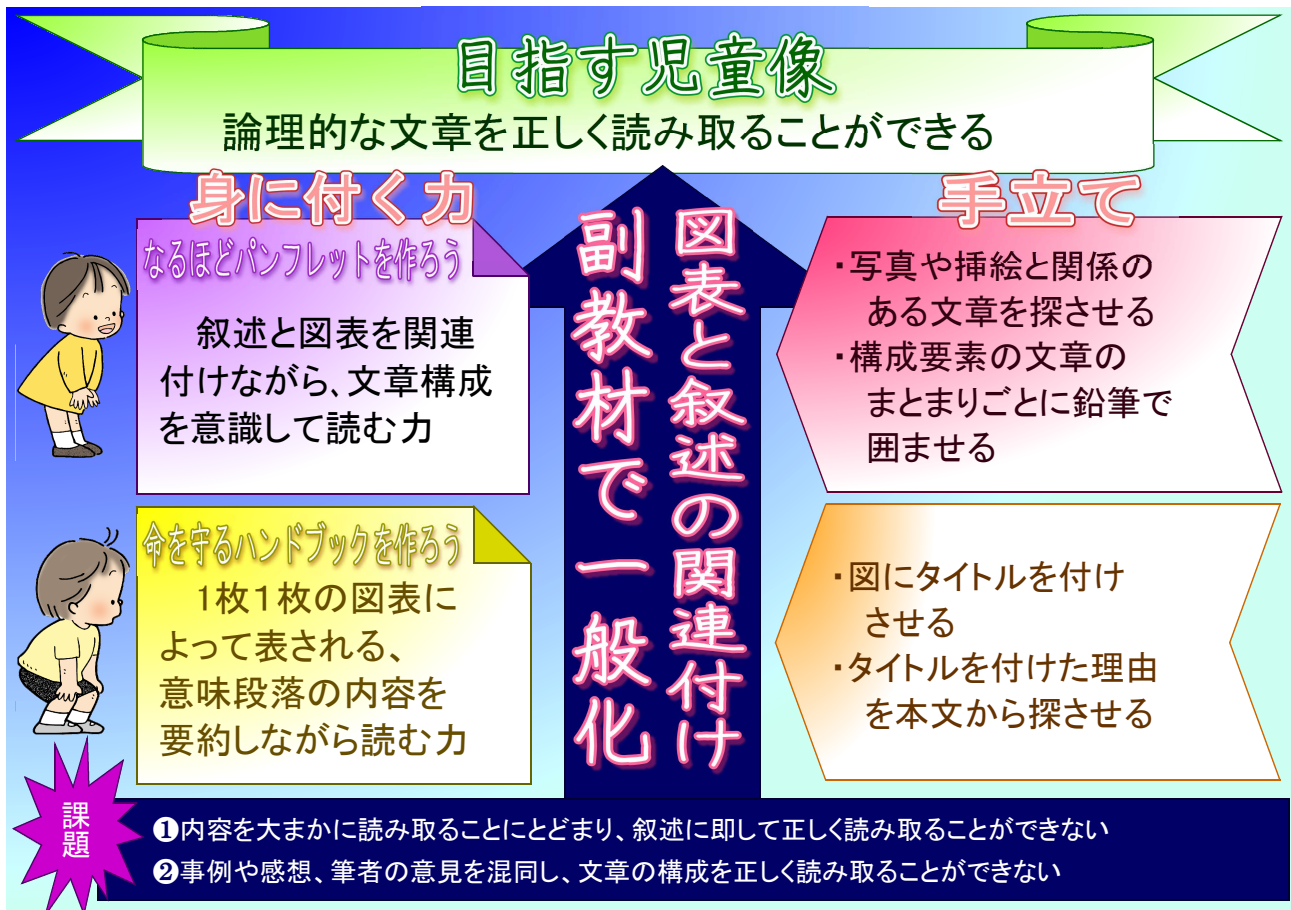
本校の児童は、読書に対して意欲的で、自分で選んだ物語を進んで読むことができる。国語の授業においても、物語を読んで思ったことや、登場人物の気持ちについて考えたことを、積極的に発表する児童が多い。

一方、説明文などの論理的な文章の読み取りにおいては、事実と感想、筆者の意見を区別したり、意見の根拠となる部分を文章の中から探したりすることを難しいと感じ、進んで学習に取り組むことができない様子が見受けられる。

そこで、論理的な文章を正しく読み取らせるために、叙述と図表を関連付けながら文章を要約したり文章構成を捉えさせたりする活動を設定する。そうすることで、児童は図表を手がかりとしながら文章全体の論の進め方やまとめ方を意識して読み、要点を捉えたり、文章全体の構成を読み取ったりする読み方を身に付けることができるであろうと考える。本実践を通して、単元構成に並行読書を位置付け、論理的な文章を適用教材を取り入れて読む回数を増やすことにより、正しく読み取る力を身に付けることができるであろうと考え、本主題を設定するものである。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

論理的な文章を読み取る場面において、叙述と図表などの視覚的情報とを関連付けながら読む活動を設定し、以下の点に留意して実践を試みた。また、児童が主教材(教科書教材)で学んだ内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、副教材を用意し、適用させる学習時間を確保した。

【実践1】叙述と関連付けながら図表にタイトルを付ける

- ①図表にタイトルを付けさせ、その理由を本文の言葉を使ってまとめさせることにより、叙述と図とを関連付けて正しく要点を捉えることができるようにする。 個人追究→相互交流
- ②児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、他教材を用意し、学習内容を使って読み取りを行う時間を確保する。

実践1においては、1枚1枚の図表によって表される部分(意味段落)ごとの読み取りにとどまり、文章全体の構成や、意味段落の文章内での役割を認識できるまでには至らなかった姿も見られた。そのため、手立てに改善を加え、実践2を行った。

【実践2】叙述と図表を関連付けながら文章構成を読み取る

- ①叙述と写真や挿絵とを関連付けて考えさせる際に、構成要素の文章のまとめりごとに鉛筆で囲ませることにより、構成要素を視覚的に捉えやすいようにする。 個人追究→全体交流
- ②児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、他教材を用意し、学習内容を使って読み取りを行う時間を確保する。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 図表などの視覚的情報を手がかりとして文章の構成論理を意識して読み取るという読み方が身に付いた。
- 文章の全体像を読む・概観しながら読むという読み方が身に付いた。
- 学習した読み方を使って、色々な本を読み取ろうとする姿勢が身に付いた。

### 2 課題

- 文章全体を見通して、視覚的情報を手がかりに論理的な文章を読み取る際には、教材文の内容値を落とさないように、筆者の主張にかかる部分は丁寧に読み取らせたり、全体で共有したりする場面を設ける必要がある。
- 副教材で学習した読み方を一般化するためには、副教材の選定の際に主教材で学習した内容を生かすことができるような内容であるかどうか事前に充分吟味する必要がある。また、到達度の高い児童には更に活用する力が身に付くよう、同じような種類の本を準備しておく必要がある。

### 3 提言

- 叙述と図表とを結び付けながら読む読み方を使って、様々な本を読んだり、「話すこと聞くこと」「書くこと」の領域と複合化して継続的に実践することは、論理的な文章を正しく読み取る力の伸張に有効である。
- 副教材となる図書の選定を行う際には、図書館司書、公共の図書館との連絡を密に取ることで、利用できる図書を、容易に準備することができるようになる。さらに、利用した副教材や手に入れた方法などを年計へ書き込み、蓄積していくと、更に活用範囲を広げることができる。
- 副教材で学習した読み方を一般化するためには、主教材と同じようなパターンで構成されている本を利用すると効果的である。また、選んだ副教材のシリーズを教室の近くに特別文庫として設置しておく、更に学習内容を使って読む機会を保障することができる。

## <授業実践>

### 実践 1

- 1 単元名 『命を守るハンドブック』を作ろう』～叙述と関連付けながら図表にタイトルを付ける～  
教材名 『十秒』が命を守る』三省堂・「地震の大研究」ポプラ社・「地震の秘密」学研 他（第5学年・1学期）

#### 2 本単元及び本時について

本単元は、地震発生のメカニズム、「緊急地震速報」の仕組みと、実際の事例など児童にとって未知の内容で構成される説明文から、要点を読み取るという単元である。本時は5時間扱いの3時間目に当たる。「緊急地震速報」が出される仕組みが表されている図にタイトルを付けるとともにその理由を本文の叙述から探し「ミニ新聞」を作成する。図に付けたタイトルとタイトルを付けた理由の妥当性についてグループでの話し合いにより精選する活動を通して、叙述と図表の関連付けを図り、正しく要点を読み取る方法を身に付けることをねらいとしている。

#### 【取り入れた手立て】

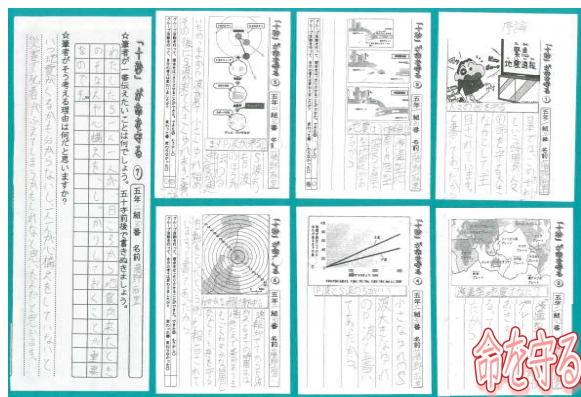
- ①図表にタイトルを付けさせ、その理由を本文の言葉を使ってまとめさせることにより、叙述と図とを関連付けて正しく要点を捉えることができるようにする。 **個人追究**→**相互交流**
- ②児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、他教材を用意し、学習内容を使って読み取りを行う時間を確保する。

#### 3 授業の実際

導入の段階で、前時の学習を振り返ることにより、タイトルを付けた理由は本文から探せば良いことを確認する（図1）。

### 個人追究 個人でタイトルを考え、タイトルを付けた理由を本文の言葉を使ってまとめる

- ①タイトルのない図のワークシートを配布する。
- ②前時と同じ方法を使って、考えることを促し、本文に目が向くようにする。
- ③タイトルを付けられない児童には、他の児童にヒントを出させたり、段落を絞って本文を読むよう促したりする。



タイトルを付けた理由を本文の言葉を使ってまとめる

図のタイトル

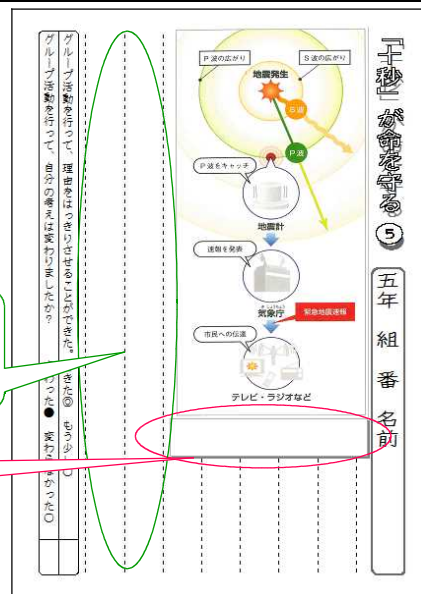


図1 タイトルのない図のワークシート

複数の形式段落に渡り、「緊急地震速報」のメカニズムや仕組みなど難しい用語が多く使用されているため、叙述が図のどの部分を説明しているか理解しにくい様子が見られた。

そのため、グループ活動を行い、叙述と図表の関連のさせ方やタイトルの付け方などを話し合いの中で探らせることとした（図2）。



図2 グループ活動の様子

## 相互交流 グループで、図に適した文章を当てはめる

- ①グループで、図の各部分にいくつかに分けた本文を当てはめさせながら、図3のように叙述と図との関係をワークシート上で確かめさせる（※1）。
- ②各自で考えたタイトルの中から最も良いものを選んだり、友達の意見を取り入れて、新たに作成させたりする。
- ③各グループごとに図の説明とタイトルを付けた理由を発表させる。
  - ・地震の発生から緊急地震速報が出るまでの間の図だね。
  - ・P波とS波のことも書いてあるから、「緊急地震速報が出せるわけ」が良いんじゃないかな？
  - ・図に文を貼ったから良く分かったよ。
  - ・友達の意見を聞いて考えを変えたよ。
  - ・話し合ったら、自分の考えで合っていることが分かったよ。

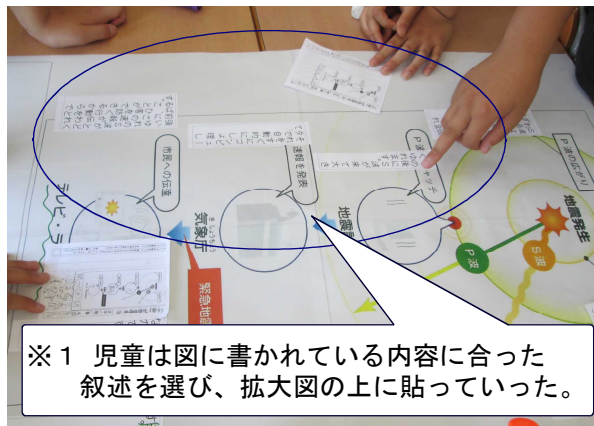


図3 叙述と図の関係をグループで確認する様子

図に各部分を説明した文章を貼り付けたことにより、児童は図と叙述の関係性をより具体的に理解し、図が文章を読み取るための手がかりとなることを確認することができた。さらに、友達と付けたタイトルを交流し合うことにより、何度も叙述に戻って筆者の意図を読み取ろうとすることができた。

さらに、児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、主教材の内容を補足でき、図表や写真での解説を多く含んだ、論理的文章の一部分を副教材として用意し、学習内容を使って読み取りを行う時間を確保した（図4）。また、副教材を使い、各々が読み取りを行っている間は、十分に教科書を読み取るができなかった児童への個別指導を行う機会とした。

## 主教材で学んだ読み方を副教材に適用する

- ①本時の後半20分を副教材に当てる。
- ②図に文を書きこんだり、文と図を矢印で結び付けたりしても良いことを伝える。
- ③教科書の読み取りが十分でない児童には個別指導を行う。
- ④図にタイトルを付ければ良いことを伝え、初見の文章に抵抗なく取り組めるようにする。
  - ・図にタイトルを付けながら読めばいいんだね。
  - ・この文章も図を手がかりにすると分かりやすいね。
  - ・図に文を書き込んだから良く分かったよ。
  - ・震度の意味が分かったよ。
  - ・P波とS波の違いが分かったよ。



図4 各自で選んだ本を読んでいる様子

### 4 考察

- 児童は文章における図表の役割を認識し、それらを読みの手がかりとすることの有用性を感じながら、副教材を読み取る活動を行うことができるようになった。
- 1枚1枚の叙述と図表との関連付けはできたが、意味段落ごとの部分的な読みにとどまり、文章全体の構成を考えた読み方には至らなかった児童が見られた。

## 実践 2

- 1 単元名 『なるほどパンフレット』を作ろう』～叙述と図表を関連付けながら文章構成を読み取る～  
教材名 「動物の『言葉』人間の『言葉』」三省堂・「どうぶつのことば」評論社 他（第5学年・2学期）

### 2 本単元及び本時について

本単元では、叙述と写真や挿絵とを関連付けながら読む活動を、文章構成の全体像をつかませるために展開する。主教材は形式段落ごとの働きが明確に理解できる論説文であり、問題提起―事例Ⅰ―事例Ⅱ―結論という文章構成が繰り返されている。また、論述の内容を補足するよう、意図的に動物や人間の言葉を連想させる写真や挿絵が配置されており、文章構成を把握しながら読み取る読み方を身に付けさせることができると考えた。

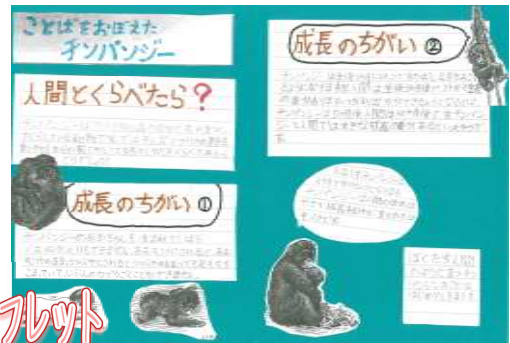
#### 【取り入れた手立て】

- ①叙述と写真や挿絵とを関連付けて考えさせる際に、構成要素の文章のまとまりごとに鉛筆で囲ませることにより、構成要素を視覚的に捉えやすいようにする。 **個人追究**→**全体交流**
- ②児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるよう、他教材を用意し、学習内容を使って読み取りを行う時間を確保する。

### 3 授業の実際

導入の段階で、前時で教師がモデルとして示したパンフレットの文章構成を確認し、本時の学習の見通しを持たせた。そして、1学期に学習した『命を守るハンドブック』を作ろうの学習を振り返らせ、写真や挿絵を手がかりに読み進めれば良いことを確認し、学習課題を「写真や挿絵を手がかりにして文章構成を読み取ろう」と設定した。

なるほどパンフレット



#### **個人追究** 個人で、挿絵や写真を手がかりに文章をまとまりに分ける

- ①文章全体から、文章構成を読み取ることができるよう全文シートを用いる（図5）。
- ②1学期の学習を想起させ、写真や挿絵を手がかりに読み進めるよう促す。
- ③叙述と写真や挿絵とを関連付けて考えさせる際に、構成要素の文章のまとまりごとに鉛筆で囲ませることにより、構成要素を視覚的に捉えやすいようにする（※2）。

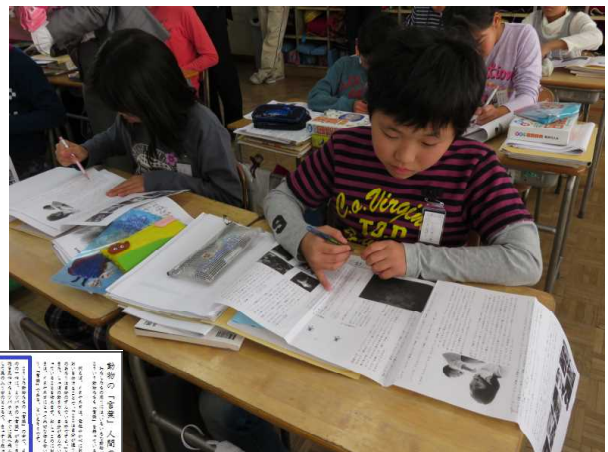


図5 各自で主教材の文章構成を読み取る様子



図6 全文シート

※2 児童は叙述と叙述に関連する図とをあわせて囲み、文章全体を文のまとまりごとに分けていった。

個々に作業して分けた文章構成を、全体で確認するために、黒板に用意した全文シートを文のまとまりごとに分け、その理由を確認した。

## 全体交流 全体で文章構成を確認する

①文章を分けた理由を発表させながら、全体で文章構成を確認できるようにする（図7）。

②文章と写真や挿絵とを関連付けながら考えさせ、文章構成ごとの役割に着目させる。

- ・ ①段落は「～でしょうか」と書いてあるから問いの文だよ。
- ・ ①段落は問いの文だから、問題提起だよ。
- ・ イヌやネコが言葉を使っているところだから①段落と②段落は一緒だね。
- ・ カラスの写真は、⑥段落～⑧段落のためにあるよ。
- ・ ⑨段落は「このように～」と書いてあるからまとめだね。
- ・ 事例の所に写真があるよ。事実であることがはっきりするからね。



図7 全体で文章構成を確認する様子

全文シートを用いたことで、児童は改ページなどにとらわれることなく、文章全体の構成をおさえ、それぞれの構成要素としての役割を読み取ることができた。このことから、全体を俯瞰して読むという読み方が身に付いたと思われる。

さらに、個々の児童が学習内容を振り返り、身に付けた力を活用することができるように、問題提起・事例・結論の文章構成が比較的明確に表現されており、更に図表や写真が多く使われている副教材を準備した。実践1のように、部分的に選定して与えるのではなく、副教材6種類、それぞれ全文を用意し、読ませた上で選択させ、本手立てによる読み取り方を適用させる時間を確保した。また、各々が読み取りを行っている間、特別な支援を必要としている児童への個別指導を行った。

## 主教材で学んだ読み方を副教材に適用する

①主教材と同じ方法を使って副教材を読み取るよう促す。

②副教材は6種類用意し、児童が自分の意思で選択して読めるようにする。

③自分で選んだ副教材を読み取った児童には、他の教材にも取り組ませ、習熟を図る（図8）。

④副教材への主体的な読み取りに移行できない児童には、図を並べ換えさせたり、叙述の中から図に書かれている内容を読み取らせたりしながら文章をまとめごとに分けられるようにする。

- ・ 最初に問題提起があったよ。これにも「～でしょうか」と書いてあったよ。
- ・ どの本も事例が一番多いね。



図8 各自で選んだ本を読んでいる様子

### 4 考察

- 文章構成を確認する際には、その図表が入っている理由を叙述をおさえながら確認させる活動が必須である。その際に、接続語や文末表現などの既習事項も再認識させることができた。
- 主教材では自信を持って活動できなかった児童も、副教材を読み取る際には、叙述と図表を囲みながらどんどん読み進めることができた。このことから、学習内容の一般化に副教材を利用することは大変効果的であると考えられる。
- 副教材を読む際に児童の自主的な選択を尊重することにより、上位者は複数の本を読むことができた。また、その間は、読み取りが十分でない児童への個別指導に充当することができた。